

令和3年度 静岡県地域外交推進本部会議

令和3年4月21日

【栗田地域外交課長】 ただいまから、令和3年度「静岡県地域外交推進本部会議」を開催いたします。進行を務めます地域外交課長の栗田と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、東郷対外関係補佐官、秋岡通商担当補佐官、三田対外関係推進員、外務省地方連携推進室の小野室長には、オンラインで御参加をいただいております。

それでは、次第に従い会議を進めます。

はじめに、令和3年度の地域外交推進体制について、地域外交担当部長から御説明します。

【長谷川地域外交担当部長】 地域外交担当部長の長谷川です。日頃から地域外交の推進に当たり多大な御協力をいただき、誠にありがとうございます。議題に入ります前に、令和3年度の地域外交推進体制について、私から御説明いたします。

資料2の4ページを御覧ください。静岡県地域外交推進本部は、地域外交戦略を展開するに当たり必要な施策を総合的かつ効果的に推進するため、設置しております。平成28年度に知事直轄組織となった地域外交局が各部局と情報の共有・連携を図っており、県組織全体が部局を越えて交流を推進する体制を整えております。

このような主旨から、資料の6ページにありますように、知事・副知事をはじめとして各部局長にも委員として参画いただいております。今年度からは、デジタル戦略担当部長及び感染症対策担当部長にも加わっていただくことになりました。本日は密を避ける会場設置の関係で出席いただいておりますが、現在、最重要課題解決に取り組む部署として、今後も御協力いただくこととなります。

また、通商推進体制の強化を図るため、通商推進プロジェクトチームを設置運営しております。通商推進プロジェクトチームにつきましては、別綴じの参考資料の1-2、2ページになります。県産品の輸出拡大など、5つの重点分野に取り組むタスクフォースを設けています。各タスクフォースでは、部局を横断した関係各課が連携して課題解決に向けた具体的な取組を実施しております。

地域外交と両輪として活動している多文化共生の推進体制については、同じく別綴じ参考資料の1-3、3ページを御覧ください。多文化共生に係る課題を総括し、全庁的に施

策を推進する体制をとっております。

本年度も皆様方の御協力のもと、友好的互惠互助に基づく本県の地域外交を推進してまいりますので、御協力のほど、よろしく願いいたします。

私からは以上です。

【栗田地域外交課長】 次に、令和2年度の地域外交事業の全体評価及び令和3年度 of 取組の方向性について、地域外交局長から御説明します。

【影島地域外交局長】 地域外交局長の影島です。よろしく願いします。

それでは議題1、令和2年度の地域外交事業の全体評価及び令和3年度 of 取組の方向性について御説明します。

まず8ページ、資料3「静岡県の地域外交の展開」を御覧ください。令和2年度はコロナ禍により、海外との交流に関する多くの事業が中止・延期となりましたが、このような中においても、対面とオンラインを活用したツイン外交と、現地において対面活動が可能な海外駐在員事務所の活用や現地のカウンターパートとの連携により、成果を残すことができたと考えております。併せて、駐在員配置の優位性を強く感じた一年でもありました。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続くと想定されることから、令和2年度の成果を踏まえ、デジタル技術の活用や東京2020オリンピック・パラリンピックへの対応、さらには海外からの活力取込など、新たな要素を加えながら海外との交流を推進してまいります。

また、多文化共生の取組に関しましては9ページに記載のとおり、令和2年度の実績を踏まえ、令和3年度はウィズコロナ・アフターコロナ時代における多文化共生社会づくりに取り組んでまいります。

続いて、10ページ、資料4「コロナ禍において優先すべき取組」であります。こちらは、現行の地域外交基本方針に定めている重点6か国・地域について、特に優先すべき取組をまとめたものです。

現行の地域外交基本方針では、資料左側にあるとおり、重点6か国・地域ごとに中期的視点による重点的取組を定め、各分野における交流を進めているところです。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況においては、航空路線の早期回復や友好協定等の周年行事などを考慮した上で、特に優先するものを整理し、右側の表のとおり、とりまとめました。

また、11ページ、資料5にあります「多文化共生の取組」につきましては、情報提供や

通訳の支援、相談窓口や就職に関する要望が多かった調査結果を踏まえ、優先すべき取組をまとめ、施策を展開してまいります。

続いて、12 ページ、資料6「新型コロナウイルス感染症に係るフェーズごとの取組」についてであります。これは、新型コロナウイルス感染症の収束までを4つのフェーズに分け、それぞれのフェーズごとに実施すべき取組をイメージするための資料です。

フェーズの区分としては、入国制限や入国後の行動制限、それに伴う観光や空港の動きを条件にしております。また、これらの条件と連動するものではありませんが、ワクチン接種も徐々に進んでいくことを、矢印にて表しております。

新型コロナウイルス感染症に基づく入国制限措置等が、今後、段階的に緩和されるにつれ、各分野で取り組むべきことは変化していきます。

本資料は想定案であり、あらかじめ取り組むべきことを予測し、事前に準備を進めるための整理に役立てていただくためのものとして作成しました。

次に、13 ページ、資料7「各国・地域別の事業概要」についてであります。

こちらは、令和3年度の地域外交関連予算のうち、重点6か国・地域及び多文化共生について、主な事業をまとめたものです。先ほどの優先すべき取組を考慮しつつ、各部局において各国・地域との交流を推進してまいります。

以上が、令和2年度の全体評価及び令和3年度取組の方向性に関する説明になります。

【栗田地域外交課長】 続きまして、静岡県地域外交基本方針の令和4年度改訂における考え方について御説明します。

【影島地域外交局長】 それでは、議題2、地方外交基本方針の令和4年度改訂に向けた考え方について御説明します。

静岡県地域外交基本方針は、平成24年に策定し、平成30年に新ビジョンの作成に合わせて改訂を行いました。本日は、次回令和4年4月の改訂に向けた作業を進めるに当たり、委員の皆様方の御意見を伺い、考え方や取組の方向性について御了承をいただきたいと考えております。

21 ページの資料8「令和4年度改訂 新たな地域外交基本方針に対する考え方」を御覧ください。資料上段は、地域外交の視点からの現状です。1点目は、人的及び物的往来の状況です。新型コロナウイルス感染症による制限のある中、オンラインや海外駐在員を活用した交流を進めておりますが、より深い関係の構築、交流の継続、新たな関係の構築には、やはり対面による交流が今後も重要であると再認識したところです。また、物の動き

については、いまだ先行きが見通せない状況が続いています。

2点目は、本県の総人口等の状況です。本県の人口減少はコロナ禍以前からの課題でしたが、これに対しては地域外交が窓口となり、海外の優秀な人材や企業など海外の活力を取り込むことが必要と考えます。本年2月、首都圏・関西圏在住の外国人を対象に実施したアンケート調査でも、本県への移住可能性のある外国人が多かったことから、本県の活性化につながる海外活力の取り込みの可能性を感じているところです。

以上の現状を踏まえ、左下にあるとおり、課題を整理しました。1つ目は、国際平和に貢献し、人と人との相互理解を深め、多文化共生社会実現のため、これまでに築いた相互の信頼関係の強化。2つ目は、新型コロナウイルス感染症による影響の中、特に生命や生活、経済などに直結する分野への予算配分や人材配置にウエートが置かれる中での地域外交の在り方の共有。3つ目は、社会変容への対応を踏まえた次期基本方針の策定です。

これら3つの課題に対する考え方については、その下にあるとおりです。現在の基本理念である、友好的互惠・互助に基づく善隣外交、異文化との心の交流と相互の富の増進、対内政策と対外政策の一体的経営の考え方は継続していきます。

その上で、課題1に対しては、世界で輝く“ふじのくに”として、地球規模の課題に海外自治体等と共に積極的に取り組むことにより、信頼関係を強化し、併せて世界における本県の存在感を向上させていきます。

課題2については、世界と繋がる“ふじのくに”として、重点6か国・地域との交流を限られた予算と人材の中でメリハリをつけて展開していきます。課題3については、世界から選ばれる“ふじのくに”として、本県の課題解決につなげるため、新たな展開として、外国人材や企業の獲得など海外からの活力を取り込み、進めます。

これらに加え、誰一人取り残さない“ふじのくに”として、多文化共生社会の実現を目指してまいります。なお、こちらについては、多文化共生推進基本計画の改訂の中で別途検討を進めてまいります。

これらを踏まえた取組の方向性を右側に記載しました。こちらについては、基本方針の改訂作業を進めていく中でより具体化させていく予定です。

なお、現在の基本方針に関する評価と現状、課題については、22ページからの資料9のとおりです。これらの評価を踏まえた上で、県の総合計画と併せまして、新たな指標等の作成を関係部局と連携しながら進めていく予定です。

基本方針の改訂スケジュールにつきましては、25ページの資料10「地域外交基本方針改

訂に向けたスケジュール」を御参照ください。関係部局とも調整を行い、また、パブリックコメント制度により広く県民からの御意見をいただきながら改訂作業を進めてまいります。

議題（２）に関する説明は以上になります。

【栗田地域外交課長】 それでは、これまでの説明を踏まえまして御意見を賜りたいと存じます。ここからは、地域外交担当部長が進行いたしますので、お願いします。なお、オンライン参加の皆様がいらっしゃいますので、発言の際は挙手をいただき、進行者から依頼があった後、マイクの電源を入れて御発言いただきますようお願いいたします。

【長谷川地域外交担当部長】 それでは、意見交換に移らせていただきます。ただいま地域外交局長から説明いたしました議題（１）令和２年度全体評価及び３年度取組の方向性及び議題（２）地域外交基本方針の令和４年度改訂の考え方につきまして、何か御意見とか御助言がございましたら、よろしく御発言のほう、お願いいたします。もしくは、内容、資料に関する御質問等でも結構でございますので、何かございましたら御発言お願いいたします。

それでは、東郷補佐官、よろしいでしょうか。

【東郷対外関係補佐官】 今年の作業についてちょっと感ずるところがありますので、一言だけ最初に発言をお許しいただきたいと思えます。

私が対外関係補佐官の辞令を頂いてちょうど10年になります。この会議、1年に1回やる重要な会議として認識してきたつもりです。ただ、今年ほど会議に当たって関係者が一生懸命準備をしたのは、実は私の経験で初めてなんです。Zoomの会議を秋岡補佐官に入っていて何回やったか分からないぐらい議論して、私だけの会議もやりましたし、ここに作ったこの文書、私たちがなりにできるだけメリハリをつけて、地域外交の内容、それから、やり方について一生懸命議論をやってきたつもりなんです。

それにはやっぱり理由があったと思うんですね。それはどうしてもやっぱり今年それだけ一生懸命やらなくちゃいけないという危機感ですね。危機感を僕は持っていたんです。それは1つはコロナですね。コロナは去年大きな問題があつて、地域外交のやり方をコロナで一変させましたよね。今年はまだ収まったかなと思ったんですけども、そうは言えない。少なくとももう一年はこの臨戦態勢を続けてやらなくちゃいけない。そうすると、大ざっぱに言えば、ハイブリッドまたはツインで、オンラインと対面を組み合わせるとさらに効率を上げるということなんですけれども、これ、各論でそれを一つずつやるとい

うのは、この資料を見ていただいても分かるように、非常に難しい課題が山積していると。

もう一つは国際情勢ですね。これがここ数年緊迫してきたというのは、申し上げるまでもないと思います。特にバイデン政権が登場した後、米中対立を核として世界情勢は一層緊迫してきている。ここで日本の世界における立ち位置が非常に重要になってきて、でも、重要になってきている分、難しくなっているわけですね。特に近隣国との関係、これは中国、それから、韓国、緊張含みで推移しています。

しかし、県の地域外交の最重要の原則というのは、国家間の政治関係がいかに緊張していても、地域同士の友情と連携は揺るがせはしないということで、私も10年、川勝知事の哲学を学んできて、本当に素晴らしいと思うんですね、この考え方。その考え方が素晴らしいと思ったのは決して私一人じゃなくて、この作業をみんなでやってきた地域外交の同僚全員の意見だと思うんです。でも、そうであればこそ、こういう考え方が十分県民の理解を得ながら実施できるように、私たちとしては各論を含めて努力していかなくちゃいけないと、そう考えて準備をしてきたつもりです。

でも、政策というのは立案しただけでは意味がないので、どうしても実施に結びつけなくちゃいけないんですね。今日の会議でぜひ、実際に担当しておられる方あるいは外部の方から積極的な御批判、御意見をいただいて、この議論をこれからの私たちの地域外交の実施の出発点にできないかというふうに思っていますので、どうか積極的な現場からの御批判、御意見を聞かせていただいて、今日この会議をこれからの地域外交の実施の第1日目にしたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

最初に私の感覚をぜひ申し上げたかったので、一言時間を取らせていただきました。ありがとうございました。

【長谷川地域外交担当部長】 東郷補佐官、ありがとうございました。事前の様子も言っていて、10年間で一番ということだと今まであまりやってなかったんじゃないかというふうにはお叱りを受けるところもあるかと思うんですが、こういう状況もあって、今、東郷補佐官のお話にもありましたが、かなり今年は本当に早い時期から、我々どういう形でこの会議の準備をしようかということで、両補佐官を中心に御相談させていただいてきて今日に至っています。まだまだ不十分なところはあると思いますけれども、そこをぜひ皆さんに御協力いただいて、今年も1年良いものにしていきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

何かほかに御意見とかございましたら。なかなか発言しにくいと思いますけれども。そ

れでは、事前に御相談した中で一番、東郷補佐官と並んで御相談させていただいて、特に通商関係で御相談させていただいているんですが、秋岡補佐官、何かございましたら、よろしいですか。

【秋岡通商担当補佐官】 通商補佐官の秋岡です。3点ほど申し上げたいと思います。

1点目は、今、東郷補佐官からも、補佐官になられて10年ということで、10年間振り返ってみると、最初の頃よりも交流している国も増えていきますし、範囲も広がっているんですけれども、民間交流あるいは経済面では、投資とか通商がベースをつくったという点では、所与の目的を十分に達成しているのではないかと、一定の基盤がいろいろな国・地域と出来たというふうに評価をしています。

2点目は、通商についてなんですけれども、ただ、通商については、コロナというのが起こって、これからこういうことが常態化するかもしれないということを抜きとしても、通商は戦略をいま一度見直すべきところに来ているのではないのかなというのが私の正直な、今年度の会議で申し上げたい感想です。その場合のキーワードとしてはDXとマーケティングと農水省改革と植物工場、この4点があると思っています。

まず中国についての通商というものを振り返ってみますと、私はここ数年来ずっと浙江省との通商関係を強化すべきだということを何年にもわたって申し上げてきたつもりです。それに加えて、去年おとし辺りからは、中国政府の方針でもある上海市、浙江省、江蘇省、安徽省、この1市3省の揚子江デルタ地域、ここの経済成長が著しく一段と進んで大きなマーケットになるのではということは何度もいろいろな場で申し上げてはきたんですけれども、正直言って、思っているようには残念ですけど進んでいないというふうに思っています。

先日、地域外交のほうで、浙江省の、今、こういう経済規模ですとか、浙江省はこういうところですよという資料を出されましたけれども、浙江省は東京都に匹敵するGDPを有している中国の省です。先進的な企業も、アリババをはじめ幾つも立地していて、民間企業の力が非常に強い省だと言われています。1市3省でいえば、上海市はそれよりも大きいですし、トータルでは江蘇省が浙江省を上回って、1人当たりでは浙江省が江蘇省を上回るというように、東京規模の経済力を持つところが集中して立地しているというところがあるわけなんですけれども、中でも浙江省というのは、やはりこれだけ浙江省と本県の関係が深くなっているにもかかわらず、では、どれだけ経済面で浙江省との間で関係が築けているのかというと、私はまだまだやれることがあるのではないかと。

別の言い方をすると、これまでは揚子江デルタ1市3省をターゲットにと思ってきたんですけれども、やはりこれは本県だけではなくて、日本全体がなかなか日系のデパートあるいは香港系の日系のバイヤーさんがいる大手スーパー、あるいはその他中国系のところでも、日本のことを理解している、できれば相当日本語のうまい人がいる、バイヤーさんがいるところ以外のところになかなか食い込めていないというのが日本全体の問題であって、ここで一気に1市3省を頑張っていくというのはなかなか難しいのかなという気がしています。

それは同時にどういうことかという、皆さん、日本のものは人気だというふうにおっしゃるんですけれども、日本のものは人気ですけれども、日本のものだけが人気があるわけではなくて、世界中で日本のものも含めていろいろな国のいいところのものはみんな人気になっているというのが正しいのだと思っています。

その日系の壁を越えられないという一方で、先ほどのキーワードの1つの農水省の、今年の7月の農水省の組織改革では輸出局が創設されます。これで三百何十人体制になり、食品加工部門が強化され、一挙に農水省は輸出にバイアスをかけていきます。もう既にこの動きは始まっています。そうなる何が起こるかという、日本が海外でのマーケットを拡大する以上に、日本からの輸出のラッシュが起こることが懸念されるわけです。そうすると、その中で日本の各県同士の、今までも既に和牛の輸出などでありましたけれども、日本の産品同士の競争が激しくなって、その中で淘汰が起こる。そこで、売場を確保できなかったところは売る場所がなくなるというようなことが今年辺りから激しくなってくるのではないかとというふうに懸念しています。

そういう点で、ここは私は、中国だけではありませんが、中国について言えば、あえて手を広げ過ぎるよりも、既存の上海で取引があるところはそれでキープはするとして、浙江省についてももう少し丁寧にマーケティングを行うであるとか、商流の開発を行うということで、ここはきちんと静岡県がちゃんとしたパイプを持つということを経営論含めて一つずつ詰めた議論をしていく必要があるのではないかと感じています。折しも三、四日前に寧波に鳴り物入りの寧波阪急、クールジャパンから相当、100億円近いと言われていますが、資金も入ったデパートが、3年越しというか3回延期されてオープンしましたけれども、ここは非常ににぎわっているという映像が中国から送られてきていますが、やっぱり浙江省のマーケットについてきちんと戦略、戦術論を練ることが1つの課題としてあると思います。

また、2点目というか、DXについて申し上げますと、今はDXというと、Zoomで会議をやりましたとか、ライブコマースをやりましたという、そういう出口のところの話題性のあることが取り上げられることが多いんですけども、やはりDXというものをもっと根幹から考えるときに、例えば我が県には清水港がありますという話は資料によく出てきますけれども、これから例えばZoomとかコミュニケーションのデータ化が進む中において、当然それで物が動くときの港のDXというものも世界に打ち勝っていくためには必要であって、例えば清水港というところの輸出品が出入りするところのDXがどうあるべきなのかという議論。

例えばちょっと聞いた話ですけども、港に入っている商品が、いつ入って、何があって、どこに行くのかという、そのプロセスが中国の寧波港などははるかに進んでいるというふうな指摘も受けています。また同時に、私はZoom等でのいわゆるライブコマースのようなものが進むと、当然商品は、サンプルは手にしているわけですが、その場で食べることができる人は少ないわけですから、例えば果物であれば糖度であるとか、輸出品をデータ化してやり取りするということが進んでいくと思うんですが、そういう面で本県はどのような取組をすべきなのか。それは、あるいは港というところにそういう仕組みをつくって、他県の利用者が清水港を通して輸出をしていけば、そうしたコミュニケーションのデータ化と併せて、輸出品のDXを手軽に行うことができるというようなメリットを見出すことができるのか、これ、やるかどうかは別にして、こういう議論もしていく必要があると思っています。

また、果物の糖度という点について言えば、我が県は特に東南アジア等には果物が主要な輸出品になっていますけれども、コロナでこれだけ健康に対する人々の関心が高まり、なおかつこの国でも高齢化が進んでいるときに、いつまでもより甘く、より甘く、より甘くという戦術で物が売れるのかというのも、今1つの見直しのところに来ていると思います。多分皆さんもそうだと思いますが、年を取ると、お医者さんに甘い物を食べるなど言われます。糖質の取り過ぎと脂質の取り過ぎというのがよくないと言われている中で、これからも甘ければいいというだけなのかということも見直す必要があると思っています。

もう一つの論点のマーケティングについて言うと、今のところは、あるものを売りたい人が輸出しているという流れになっているんですけども、これではやはり輸出は伸びないので、マーケティングをより強めていく、しっかりとした輸出先国のマーケティングを

やることが重要だと思いますが、私はそこに、各拠点の人たちへのサポートを大いに期待するところでもあります。

そうすると、どういうことかという、この国ではこうだとか、日本のものが人気ですとかということは、正直言ってこれからは言ってほしくないです。この国のどんなところで、どんな人が買うところで、どんな嗜好性を持った人が買うところで、どんなものが人気なんだということを説明していただきたい。日本のものが人気だというよりは、日本のもの以外にこんなところのものが人気だという情報をむしろ言ってもらいたい。そうでないと分からないわけです、その国のマーケットが。例えば上海でもいい、シンガポールでもいい、そこでこんなものが売れているという説明をしてくれたときに役に立つのは、その国のマーケットの構造、その国のマーケットの特異性と普遍性を説明してくれなければ、汎用性を持たないわけです。今は既にその段階に来ているので、ぜひこれはお願いしたいと思っています。

それから、最後に4点目の植物工場ですけれども、農業系の団体が植物工場を海外に造るのはまだ大分時間がかかるとは思いますけれども、もう既に各メーカーがコンソーシアムを組んでいるようなところは積極的に、特にイチゴを使った植物工場がかなり完成度も高くなっています。今、ニューヨークでも、日本のある経営者の方が植物工場イチゴを作って大人気だというふうに聞いています。

本県は、イチゴは大切な輸出商品ではありますが、こうした植物工場が国内のみならず海外に造られるというふうになったときに、では、本県の果物輸出はどうなるのかというのは今から検討する必要がありますし、そこに本県のイチゴのブランド品をかぶせることができれば海外でもより大きな販路があると思いますが、残念ながら今のところ、海外の植物工場で作られているイチゴは、どのブランドもつけられていないように私の知っている範囲ではなっています。そうすると、今育てている国産の果物のブランドと流れとしての植物工場が3年後、5年後にどういうインパクトを持つかということは検討すべき課題だというふうに思います。

今、2点目までの話が終わり、最後に、1つ地域外交をお願いをしたいのは、各拠点が1人体制になってから1年たちました。1年たって、この1人体制の中で一体どういうマネジメントを行っていった、所長さんたちの主な仕事は何なんだということを一度明確にさせていただけたらと思います。2人が1人になって今までどおりのことはとてもやるのは無理ですし、通商だけでも抱えている課題があります。しかも、何年かに一度、1人

しかいないトップが替わってしまうので、そこを戦力を落とさないためには、機能として所長が何を持つべきか、機能としているローカルスタッフに何を願って、彼らをどう育てるのかということをご明確にしてみんなで協力ができればいいと思います。

以上です。

【長谷川地域外交担当部長】 ありがとうございます。4つの課題と申しますか、御助言をいただきまして、ありがとうございます。浙江省の関係、先ほど局長からお話ししましたけれども、来年が40周年ということで、我々、これまで培ってきた関係を基に、今まではどちらかというと、企業のビジネスの関係は、静岡県企業が現地で生産をする、そういったことでの経済関係として動いていたところが強いんですが、御指摘のとおり、今はそういう時代はぼちぼち終わりつつあって、対等にビジネス、輸出・輸入をしていくというところで浙江省は非常に大きなマーケットであるということは我々も認識しております。

折しも東京に浙江省の商務庁の事務所も開設されて、今ちょっとコロナの関係でなかなか動きが取れていないところではあるんですが、そちらとも連携して、何かそういった、我々の環境を生かした、浙江省のマーケットに対して深く刺さるようなことをやっていきたいと考えています。これについては、通商プロジェクトチーム、難波副知事と出野副知事以下でやらせていただいておりますので、経済産業部とも連携して、我々、真剣に取り組んでいきたいと思っております。

三田対外関係推進員にも今日はオンラインで参加していただいておりますので、三田さんからも一言。特に今、中国の話がありましたけれども、中国、台湾の関係で三田さんのほうからもし御助言がありましたら。それ以外でも結構でございますので、よろしいでしょうか。

【三田対外関係推進員】 対外関係推進員を拝命しております三田です。初めて静岡の地域外交に携わらせていただいたのは2009年の秋の知事訪中のときの通訳だったと思いますけれども、それから10年余りお手伝いさせていただいてまいりました。ただ、この2年間私の勤務先の大学の仕事の関係で日本を離れておりましたので、2年ぶりにこの会議にも参加させていただきました。ですから、各論のところ立ち入った意見を、見方を述べることはちょっとできないんですけれども、私なりに中国、特に浙江省と、台湾との関係に限って少し考えるところを述べさせていただきたいと思っております。

先ほど東郷補佐官も言及されましたとおり、それから、21ページの資料8にありますと

おり、国際情勢が緊迫していると。米中の覇権争いとか、それから、ワクチン争奪戦みたいなことが起こっていて、日本を取り巻く国際情勢が緊迫しているという情勢認識が、貴県、静岡県の方からも出されているわけです。これまで静岡県は、知事をはじめ、ずっと浙江省と友好的な関係を築こうとしてきまして頑張ってきたところ、こうなってしまったのは非常に残念なところもあって、中国は必ずしも今、日本が期待している方向に動いていないところがやっぱりあります。

ただ、それは、しかし、静岡県の地域外交に影響し過ぎてはいけないんじゃないかなと思います。やっぱり緊迫しているというんですけれども、緊迫させると得する人がいるから緊迫させる人がいるわけであって、それはそれで静岡は静岡なりのやり方があるのではないのでしょうか。特に静岡の場合は、大陸の浙江省と台湾と両方に友好的関係を築いているということが非常に貴重で、これが静岡の強みだと私は常々思っておりました。静岡県以外で大陸、北京や上海と、それから、台湾の両方に事務所を持っている自治体は、静岡県以外はまだ沖縄だけだそうです。沖縄県は地理的、歴史的に双方と関係が深いところですからそういうこともできるんだと思いますが、それ以外で静岡がそういう関係を築けているというのは極めて貴重で、この関係はぜひとも保っていくべきではないかなと思っています。これはもう大げさじゃなく、東アジアの平和のインフラの一部になっているというふうには私は認識しています。

両方と、台湾とも関係を持つ、あるいは上海に事務所があるんですね。北京もですか。大陸と台湾と両方に関係を持っていることに何か文句を言う筋があるかもしれません。台湾と積極的に友好関係を進めていくことで中国の関係筋から何かお話があったとかないとかいう話もありますけれども、それはもう全然遠慮の要らないことであって、台湾と大陸と両方と関係を持つということに全然遠慮は要らないと思います。そもそも中華人民共和国という国自体が韓国と北朝鮮と両方と友好関係を持っているわけですから、台湾と大陸と両方友好関係を持ったからといってどうこう言われる筋合いはないわけですね。

浙江省や台湾と、両方ともこういう安定的な意思疎通ができることになっている。浙江省とも台湾とも友好的で建設的な関係が築けているということは、台湾と中国にとってもいいことのはずであって、これはもう後からむしろ感謝される関係になるんじゃないかなと思っています。これまで知事が非常に頑張ってくられて、属人的な関係も築いてこられたんですけれども、属人的な部分以外でも強固な関係が築けているなということが、ここまでお手伝いさせていただいてよく分かりました。

これを御覧いただくことができるでしょうか。これが 2010 年、3776 訪中団が浙江省の紹興を訪れたときの記事、ちょっと古い記事になりますけれども、紹興日報というのは、中国共産党の紹興市委員会の機関紙です。ですから、これ紹興市、共産党の紹興市の支部の公式見解なわけなんですけれども、ここに出てくるのは、「浙江省は協力関係を強化し、友好的互惠関係を推進（中国語）」ということで、当時、日本の政権も中国の政権も、中国と日本の関係は戦略的互惠関係、戦略的互惠だと言っていたわけなんですけれども、知事は、戦略というのはちょっと言葉がとげとげしいとおっしゃったんですが、そんなことはない、友好的互惠関係こそ日中のあるべき関係だということで、3776 で訪中されて、その行く先々で友好的互惠関係ということを広めておられました。それが紹興日報、共産党の機関紙にも載ったということで、この理念が 3776 訪中団によって広められたということが言えるんじゃないでしょうか。

もう一つは、こちら。これは 2013 年に静岡県の皆様が台湾を訪問されて、桃園県消防局と防災協力協定を結ばれたときの記事なんですけれども、静岡県に重大な災害があったときは桃園県が真っ先に駆けつけて助けるということを中国時報という新聞に出しているわけです。

ということで、理念もこの 10 年で広まっていますし、そして、それに何よりも実践も結びついているなということを感じております。例えば四川省に訪問したのは 2010 年ですから、四川大地震の 1 年ちょっと後に浙江省の地震の関係者と一緒に合同視察したりしたこともありましたが、それから、そのときに浙江省の危機管理当局と、それから、静岡県の危機管理当局が非常に草の根レベルまで協力関係が築けているなということが分かりましたし、その後、いろいろな文化交流もありましたし、卓球交流もありましたし、それから、宮崎所長の下で台湾各界とも非常に強固な関係を築いているということが分かりました。ですから、こういう関係が、これ、互惠・互助の関係、友好的互惠関係ですね。資料 8、21 ページにも出てきます、基本理念の一番最初に出てくる場所ですね、この友好的互惠関係ということが浸透して行って、実質的な互惠・互助の関係が築けているなということが分かりました。

ですから、この後は、例えば浙江省、台湾、静岡で合同の行事なんかもできるんじゃないかなと思います。例えば卓球大会なんかは、お金はかかりますけれども、3 者が協働して、静岡、浙江、台湾なんかと一緒にできるというようなこともできるだろうし、それはお金はかかりますけれども、誰も傷つかないし、誰も犠牲にならない、非常にいい関係が

築けるような気がします。

そういうイベントだけじゃなくて、ふだんからの防災や衛生関係、それから、パンデミックに関しても静岡県と浙江省が協力を行ったというふうに向っています。そういうふだんからの協力関係が築けているということ、こういう関係がまさに静岡県が推進しておられる多文化共生の下部行動になるなと感じておりますので、非常に厳しい時期ではありませんけれども、実質的な、属人的なものに限らない、それから、持続的・実務的な関係というのをこれからも続けていければ、非常にこれは中国、台湾、日本にとってもいいことになるんじゃないかなと愚考しています。以上です。

【長谷川地域外交担当部長】 ありがとうございます。中国、台湾に関して非常に我々としても勇気づけられる御助言をいただきまして、ありがとうございます。実際今の中で、今までの成果なんでしょうけれども、中国側からも台湾側からも等しく昨年度も、コロナ禍でしたけれども、知事との面談をしたいとか、我々事務レベルでの協議をしたいというお話を受けさせていただいて、非常に我々ありがたいんですけれども、どのように進めていけばいいかということちょっと手探りの状況だったんですけれども、今のお話を聞きまして勇気づけられたところです。ありがとうございます。

本日はオブザーバーという形になるんですけれども、外務省地方連携推進室から小野室長様に御参加いただいておりますので、小野室長様から御発言よろしいでしょうかね。外務省からということで何か静岡県への御助言をいただければと思います。

【小野地方連携推進室長】 外務省地方連携推進室の小野と申します。本日はこのような非常に重要な会議にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。これまで貴県が地域外交基本方針の下で様々な分野での国際交流の促進に県一丸となって取り組まれていることは、国の外交に携わる者として大変に心強く、素晴らしいことと考えております。

外務省では、このような国際展開を積極的に推進されている自治体の皆様と連携することを通じて、国と地方が一体となったいわゆるオールジャパンでの外交力の強化を目指してきております。地方連携推進室では、これまで様々な事業を通じて貴県と協力させていただいております。令和2年度だけ見ても、先ほどからお話しに出ている中国で昨年12月に実施した地域の魅力海外発信支援事業において、静岡県のPR動画の配信とともに北京のスタジオと静岡県内の現地を結んだ中継イベントにも参加いただきました。また、東京オリパラ・ホストタウンの魅力発信を目的に外務省が制作したInstagram動画において、県内の焼津市、三島市、浜松市の3つの市を紹介させていただきました。

令和3年度についても、新型コロナの感染状況を注視する状況は依然として続いておりますが、地域の魅力の海外発信や地方レベルの国際交流の支援に引き続き取り組んでいきたいと考えておりますので、これまで同様、御理解と御協力をお願いいたします。

本日議題の基本方針の中で掲げられている6つの重点国・地域は、いずれも我が国にとって重要な国及び地域であります。先ほどポストコロナを見据えたフェーズごとの取組についての想定ということで県から御説明がありました。日本国内もさることながら、相手側のコロナをめぐる状況も国や地域ごとにまちまちですし、その点でフェーズ間の移行のタイミングは恐らく一様には行かないことが予想されます。そのため、個別の取組を実施するに当たっては柔軟かつ臨機応変な対応が求められると思いますが、そういう中で一つ一つの具体的な成功例を積み上げていくことが重要になってくるものと考えております。

貴県がそのような取組を進められる過程において、在外公館も含めて外務省として何かお手伝いすべきことがございましたら、できる限りの支援をさせていただきたいと考えております。

【長谷川地域外交担当部長】 小野室長様、ありがとうございました。資料6のフェーズごとの取組につきましては、小野室長様からお話があったとおり、国ごとに全く違う状況になるということは我々も承知しております。それから、事前の打合せの中で、東郷補佐官のほうからも、こういう想定をつくると、それにとらわれて紙上の議論が先に行ってしまうので、現場でそれぞれ対応するのを注意しなきゃいけないという話も事前にアドバイスをいただいておりますので、その辺り気をつけながら、今後、現地を挙げて取組を進めていきたいと思っております。ありがとうございました。

それでは、副知事、よろしいですか。副知事、何かございましたらお願いします。

【川勝知事】 今日は浅原君や高橋君などが出てますけども、そちらからの御報告はいただかないんですか。

【長谷川地域外交担当部長】 今日は特に時間は取っていないんですけども、では、事務所のほうから一言。

【川勝知事】 せっかくですから。

【長谷川地域外交担当部長】 分かりました。知事からお話がありましたので、各事務所から一言ずつ、先ほど秋岡補佐官からも、1人体制になってという話もありましたし、令和3年度、我々のほうと事前の協議とか予算を組んでいる中ですが、ここを重点としていきたいというような話を中心に簡単に、それでは、中国事務所から。

【浅原・中国駐在員事務所長】 中国駐在員事務所長、浅原です。東郷補佐官、秋岡補佐官、三田推進員、中国についての御助言ありがとうございます。自分も昨年の秋から中国に来て、本当に浙江省の方々に大変親切にさせていただいております。これまでの静岡県と浙江省との友好のあかしを自分の肌で感じる事ができております。

今年、浙江省と、さらに来年の40周年もございますので、確かに浙江省との通商の強化という御助言もありましたが、できる限りで自分のほうもその強化について邁進していきたいと感じました。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございます。

【長谷川地域外交担当部長】 それでは、韓国事務所、高橋所長、お願いします。

【高橋・韓国駐在員事務所長】 韓国事務所の高橋です。4月から着任いたしました。よろしく願いいたします。友好先の忠清南道へ先日行ってまいりまして早速御挨拶してきたところなんですけれども、忠清南道もこれから静岡県、山梨県などとも連携して、忠清圏、静岡、山梨の連携を推進することに賛同してくださいました。そういった形で友好先へ早速行ってきたところです。あと、航空会社とかそういったところからですけれども、訪問しているところでもあります。今、特に力を入れているところは、生わさびを仕入れる業者さんが出てきていまして、そちらの普及をだんだんウェブサイトで訴えとかそういったことも始まっております。

今、なかなか観光は厳しい時期ですけれども、様々な分野で頑張っていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。以上です。

【長谷川地域外交担当部長】 ありがとうございます。それでは続きまして、台湾、宮崎所長、お願いします。

【宮崎・台湾駐在員事務所長】 台湾駐在員事務所の宮崎です。もう9年目に入りました。これまで台湾を静岡と結ぶお仕事を本当に微力ながらやらせていただきまして、こういった時代に現場でしかできないこと、それをより分けてやっていきたいと思えます。こちらにいるといろいろなところから、むしろ台湾のほうからお声がけを、御相談いただくことが多いので、やはり対面でのお話、対面での現場での感覚、空気感というのを私も県の皆様にお伝えしつつ、バックアップ態勢をどちらもバックアップするという形でやっていきたいと思えます。引き続きどうぞよろしく願いいたします。

【長谷川地域外交担当部長】 ありがとうございます。それでは最後に、東南アジア駐在員事務所、福田所長、お願いします。

【福田・東南アジア駐在員事務所長】 静岡県東南アジア事務所の福田です。シンガポ

ールのほうはワクチンの接種が計画的に進んでおりまして、もう既に23.9%を超える方々が1回目の接種を受けています。これは世界で一番進んでいるんじゃないかと思います。実際私のほうも、昨日1回目の接種を受けてきたところです。おかげさまで副反応もなく元気に過ごしております。

こちらの現場で感じるのは、先ほど皆様からお話があったとおり、コロナの関係で経済も観光の振興についても非常にやり方が変わってきていると。そんな中で、やはり本庁の方針に基づきながら、戦略的に今後を見据えて振興を図っていく、通商なら通商の振興を図っていくというのが非常にこの変化の激しい時代で大切なのではないかと感じておりますので、今後とも御指導どうぞよろしくお願いいたします。

【長谷川地域外交担当部長】 4人ともありがとうございました。

それでは、副知事に一言ずついただければと思うんですが、よろしいですか。出野副知事から。

【出野副知事】 東郷補佐官、秋岡補佐官、三田さん、どうもありがとうございました。また、各事務所の皆さんも御苦労さまでございます。今年度、昨年に引き続きコロナ禍の中での対応ということになっているわけですけれども、通商にしても、民間、文化交流にしても、スポーツ交流にしても、全てやり方が変わってきていることは間違いありません。

対面とオンラインとのツイン外交、ハイブリッドな関係というのをつくっていかなくちゃいけないわけですけれども、特に今年から来年にかけて、モンゴルとの10周年、浙江省との40周年、特に浙江省についていうと、40年という非常に長い歴史があるわけです。先ほど三田さんの話にもありましたけれども、思い出すのは、尖閣で非常に日中間が厳しくなったときに、静岡県が、知事を団長として上海万博に行く、3,776人連れていくということでやったわけですけれども、それがきっかけになって日中間のいわゆる閣僚級の交流が再開されたということもあります。当時、地方政府同士はまた別だという、中央政府とはまた別な交流が始まるんだというような話もお聞きしました。

40周年に向けてできることをとにかく今年やっていくと。今後の地域外交というのは、全方位というのはなかなか難しい、地域的にも難しいところではありますので、とにかくできることを種をまいておくと。それで、実際対面ができるようになったときには、それが一気に花が咲くというような形で今回の令和3年度あるいは4年度に向けての方針も決めてまいりましたので、ぜひ皆さんの御協力をよろしくお願いいたしますと思います。以上です。

【長谷川地域外交担当部長】 ありがとうございます。難波副知事、お願いいたします。

【難波副知事】 今日、基本的考え方が整理されていますけれども、課題認識とか基本理念、非常にいいことが書かれていますから、これを大事にしてやっていくのが大事かと思えます。国際平和に貢献、人と人の相互理解を深め多文化共生の社会を実現するために自分たちがやっているんだと、そこを自信を持ってそれぞれできることをしっかりやっていくということが極めて大事だと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

【長谷川地域外交担当部長】 ありがとうございます。それでは、これで意見交換を終了させていただきます。それでは、最後に、知事から指示事項をお願いいたします。

【川勝知事】 まず、今日は外務省のほうから小野さん、地方連携推進室長のお立場で御出席賜りまして、誠にありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。それから、静岡県は、目下、我々が得られる最高の補佐官をいただいております。東郷補佐官、秋岡補佐官、そして、三田君と、それぞれ私が知事をあずかってからずっと対外関係のアドバイスをいただいてまいりました。この10年間の成果と課題について明確に御指摘いただきまして、ありがとうございます。

三田さんは恐らく10日ほど前にエジンバラから帰ってきたんじゃないかと思うんですけども、彼と一緒に習近平さんとお目にかかったと。それからまた、浙江省の省長並びに書記をした夏宝竜さんが今、いい意味でも悪い意味でも習近平主席の右腕として香港で大活躍をされているというのも複雑な思いでございますけれども、友情は変わらないということでございます。恐らく彼のほうも同じであるというふうに思っております。我々は常に友好的互惠・互助という、この大原則を決して崩さない。信頼をし続けるということは、友好的な互惠・互助の基礎であると思っております。

そうした中で、今、一人事務所になりましたけれども、一人事務所として最も成功している事例は宮崎君の台湾でございます。もう彼はミスター静岡あるいは日本の代表と言っていいぐらいじゃないでしょうか。大体、今の蔡英文総統、あるいはその前の馬英九さん、御一緒にお目にかかっているわけですから。蔡英文さんに一番最初お目にかかったのは日本の自治体のトップとしては私が最初ではないかと、いや、政治家の中では私が最初ではないかと思えます。そういう中でやはり信頼を得るといのは、長くいらっしゃるといことで、本当に宮崎君には心からの、静岡県を代表して厚く御礼を申し上げたいと思います。

あと、一人事務所になったのは、まさかコロナが起こるとは思ってなくて、また、事務

所をお借りするのにお金もかかるということから、機動的に人を派遣し、また戻るといふ、そのための部屋を確保するという、そういう新しいストラテジーを立てたんですけれども、今はそれがかなわないので、恐らく浅原さんも高橋さんも福田さんもいろいろと御苦労があるのではないかと思います。このDX、デジタルトランスフォーメーションの時代ですから、これをどのように活用して、また、本当にこの時代に、あるいはこれから続くこういうコロナ禍の時代に一人事務所でいいのかどうかということも考え直さんといかんといふのは秋岡さんの御指摘のとおりだと思っております。

それから、対外関係と対内関係は一体だというのは言うまでもありませんで、例えばシンガポールに福田君が行っておりますけれども、静岡県内ではタイとかベトナムとかインドネシアとかとの関係は独自に進んでいると。インドネシアの西ジャワ州との関係といふのはこちらで進んでおります。

それから、静岡県で最もたくさんいらっしゃるのブラジル人です。ブラジルの総領事閣下あるいは大使閣下がわざわざお越しになられて、ブラジルを代表して静岡県に寄られるということがございます。それから、またもちろんこれ、東郷さんとの関わりもございますけれども、ロシアからもノヴゴロド州を中心に、ぜひという動きもございまして、外交といふのはやっぱりこれ、出会いでございまして、いろいろなえにしを大事にしながら進めていかなきゃいけないと。

ですから、今、ブラジルと直接、対外関係を結ぶことがなかなか難しいにせよ、国内にいらっしゃる外国人は本当にどこまでも、静岡にお住まいである以上、スコットランドと一緒にですね、スコットランドにいる以上、たしか三田君は向こうの選挙権も持っているんじゃないかと思うぐらいですが、そういうことを、住んでいる以上、その人を、私たちがいけば、“ふじのくに”の国民として扱おうと。一切差別はしないということがございます。ですから、重点6か国・地域だけではなくて、実は国内にいらっしゃる外国人の方々、この方たちは同じように大切にすることが、結果的にはその国との対外関係もいずれよくなるということになるというふうに思っているところであります。

そんな意味で、一応、今回の令和3年度の対外関係に関わる方針を決めていただいたんですが、浙江省の40周年は、浅原君が中心になって、ぜひこれは画期的なものにしたいと。秋岡さんの御助言、あるいは三田君、あるいは東郷先生の御助言も賜りながら、向こうとよく相談をして、何がこういう新しい時代にできるのかを考えながら、この40周年をお祝いしたいというふうに思っております。

モンゴルは、これは非常に大きな成果が出てきておりまして、DXによって、あるいはオンラインによって、かえって向こうからのオンラインによる就職希望というのもございまして、ですから、人口も向こうは少ないということもございまして。そういう意味での10周年のお祝いもできるんじゃないかと。

それから、韓国は、もちろん忠清南道、それから、忠清北道は山梨県が友好関係なので、我々は山梨と静岡は今本当に一体的な関係になっております。“ふじのくに”の表玄関と奥座敷の関係ですが、忠清北道と南道ともそういうレベルを通してやっていければいいかなと思っております。この間、韓国のほうから総領事が来られまして、ソウル大学や延世大学とか、あるいは高麗大学を出ても就職口がないということで、頭を下げられて、何とか静岡でいろいろと優秀な学生さんの就職口といたしますか、そういう可能性はないかということまで来られております。ですから、我々が忠清南道との関係を大事にしつつ、あるいは6月20日におけるお茶会、これを滞りなく今までやってきていることが、どんなにこの厳しい状況であろうと静岡県とは話すことができると。

実は中国との関係も今、極めて厳しく報じられておりますけれども、程永華元大使閣下が今度は対日関係のトップに就かれて、そして、電話がかかってくる、これからもよろしくというふうなことでもございます。そのお声を聞くだけで、中国全体13億の人たちではなくて、我々は顔と名前とその人を知って、その人たちとの関係を大事にすると。1人ができることは実は小さいようで大きいところがございます。ですから、誠心誠意、それぞれ仲よくすると。そして、自分のできることをその職責に応じてやっていけば、必ず人は見えているというふうに思っております。

これは10年たちまして新しいステップ、遇々、オリパラもどういうことになるか分かりませんが、我々はラグビーワールドカップでアイルランドとの関係が深まりました。我々が勝つことによって彼らは静岡に対する友情を深めたということになっております。

ですから、何がどういふふう展開するか分かりませんが、私どもとしましては、このデジタルトランスフォーメーションの時代、また、AIの時代、ロボットの時代、それから、医学が大事、健康が大事の時代に、さて、どういふふうな対外戦略を描くかと、これを少し試行錯誤しながら、このコロナ禍の時代における、ポストコロナをにらみながらではありますけれども、ウィズコロナの今、我々は新しい出口を、聖火のともしび、この希望の光を常にどこかに、向こうにも同じように望んでいる人がいるんだということで、それを絶やさぬ形で地域外交を推進していきたいと。我々は日本のためにも、実は“ふ

じのくに”は戦っているんだというつもりで、粉骨砕身、それぞれこの3つの原則に応じて地域外交を推進していきたいと思っております。

ひょっとして私は7月4日にこの地位から去るかもしれないので、ぜひこの10年間余りで培った人的な蓄積、これが活かされるように。場合によってはそれ以降もこの職責を務めることになるかもしれません。その場合には、今申しましたようなことをベースにいたしまして、さらに推進していきたいと思っているところでございます。

今日は長時間、それぞれ海外からも、また県外からもお付き合い賜りまして、本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

【栗田地域外交課長】　ありがとうございました。本日御議論いただいた結果を踏まえまして、本年度も地域外交事業を実施してまいります。また、地域外交基本方針の改訂につきましても、本日の御意見を踏まえ、関係部局と調整を図りながら作業を進めてまいりますので、御協力をお願いいたします。

以上をもちまして、令和3年度静岡県地域外交推進本部会議を終了いたします。ありがとうございました。

— 了 —